みんなの保全パーソン
保全ラボ

1日工場診断

貴社工場を調査分析し、経営戦略の課題を明確にします。

選べる4つのコース

A. 保全水準把握コース

- ✓ 自社の保全水準
- ✓ 保全費用の業界比較
- ✓ 日常保全の課題分析

B. 設備コスト削減コース

- ✓ 設備最適化のアイデア提案
- ✓ 保全費用の業界比較
- ✓ 保全費用改善のポテンシャル評価
- ✓ 適正予算の算定

C. 保全業務量評価コース

- ✓ 自社の保全水準
- ✓ 保全費用の業界比較
- ✓ 保全費用改善のポテンシャル評価

D. 保全戦略コース

- ✓ 経営戦略として取り組むべき課題と解決策
- ✓ 設備最適化のアイデア提案
- ✓ 保全費用の業界比較

診断料金(税別):20万円+交通費

「保全ラボの工場診断」5つのポイント

1 明快な診断結果だから、「次の一手」がわかります！

定量評価の報告書

診断は定量的な評価に基づいて行うため、工場の現状が客観的に理解できます。

改善ポテンシャルの算定

故障件数や設備停止時間、保全費用のベンチマーク(目標値)を算出します。

課題と解決方法のご提案

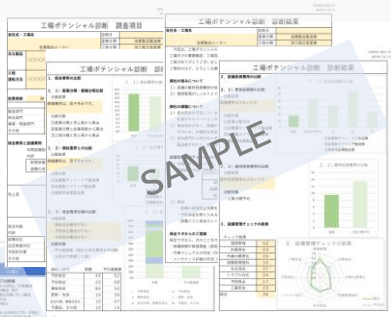
経営戦略として取り組むべき課題を見える化し、解決策を提案いたします。

2 工場訪問後、2週間以内に成果物をを提出します！

3 当日の操業への支障はありません！

4 事前準備は必要ありません！

5 秘密保持契約の締結します！



成果物のイメージ
①工場診断報告書

成果物のイメージ
②改善への提案書

工場ごとの設備管理のあるべき姿を、クライアントと共に考え抜き実現します。

みんなの保全パーソン
保全ラボ

- HP: https://hozen-lab.co.jp
- E-mail: contact@hozen-lab.co.jp
- 所在地: 東京都品川区西五反田2-9-7ドルミ五反田407
- Tel: 050-5604-9815

報告書サンプル

A. 保全水準把握コース -1

【コース概要】
Aコースでは、貴社工場の経営課題を、生産要因と設備要因の視点で調査分析を行います。分析結果として、取り組むべき課題と、収益性を改善する方策をご報告いたします。
【報告書の概要】
報告書は4部構成となっており、「診断結果の概要」「自社の保全水準」「保全費用の業界比較」「日常保全の課題分析」です。
自社の保全水準では、同等規模の工場と設備維持管理の水準を比較し、設備トラブルや品質不良のリスクを軽減する方法を明確にします。保全費用の業界比較では、生産目標の設計に活かせる資料として、業界の平均的な費用と自社工場の費用比較を提供します。
日常保全の課題分析では、生産を安定させて、経営目標の達成成感度を高めるための維持管理活動の改善方法を模索し、報告します。

1. 診断結果の概要

診断結果：貴工場のXXXXXXXXXXXXXに関する報告

貴工場への訪問による現場確認と業務ヒアリング、各種の提出資料により、以下の結果を報告します。

総合結果		1. 生産量を下げる要因のうち、設備起因のトラブルが50%以上あります。 2. 現状では、設備トラブルの予兆を見つける活動が行えていないため、トラブルを早期に発見する活動を行うことで、生産量や利益の増加が見込める考えられます。
詳細	貴社工場の強み	• 製品の原価管理の設計が適切にできており、素早い経営判断ができています。 • 設備保全の基礎である潤滑管理、現場の清掃がしっかりできており、設備の異常を発見しやすい製造現場と言えます。 • 製造現場や事務所では整理整頓が行き届いており、全体的に工場内の雰囲気が良く、働きやすそうな職場環境であると感じました。
	保全水準の現状と課題	• 日常的な保全活動の計画が、工場規模から考えると不十分と推測できます。原因は、設備維持管理の「あるべき姿」が定まっていないことがあげられます。 • 設備の維持管理の目標値は、XX年間変更しておらず、KPI設計ができていません。管理指数が定まっていないため、設備の可動状況をコントロールできていないと判断します。 • 改善のアプローチとして、設備維持管理の目標値、KPIの設計を行い、保全のあるべき姿を明確にする必要があります。
	日常保全の現状と課題	• 設備の維持活動のうち、設備が故障してからの対応が多い（現場感覚ではXX%程度）ため、故障の予兆を見つける活動を行うことが有効だと考えられます。 • 日々の点検項目が、設備の故障リスクや生産への影響度とリンクしてないと考えられるため、設備ごとの重要度を整理し、日常保全の内容を見直しが必要です。

SAMPLE

■こんなことがわかる
- 現状の経営課題が、生産要因なのか設備要因なのかがわかる
- 経営観点で、新たに取り組むべき課題がわかる
- 専門家から見た自社工場の強みがわかる

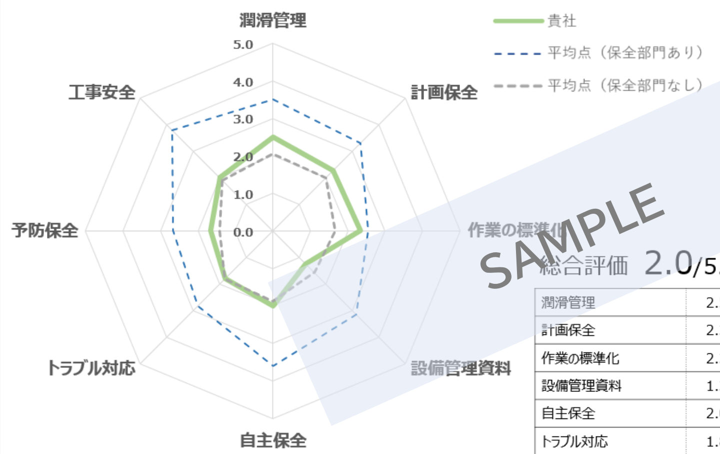
■得られるメリット
- 現状の経営方針と、報告書と比較することで、よりよい経営方針を検討するための材料を得られる
- 収益改善の新たな視点を得ることができる

■こんな改善につながる
- 現状の課題が明確になるため、工場内の適正な機能配分の見直しを進めることができる
- 必要な管理指数がわかるため、より適正な経営目標の設計につなげることができる

2. 自社の保全水準

自社の保全水準

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



総合評価 2.0/5.0

潤滑管理	2.5
計画保全	2.3
作業の標準化	2.3
設備管理資料	1.3
自主保全	2.0
トラブル対応	1.8
予防保全	1.7
工事安全	2.0

SAMPLE

総合評価として同じように保全部門を持っていない工場と比較すると、平均点よりやや高いことが分かりました。

■御社の強み
同等規模の工場と比較して、潤滑管理の計画がしっかり行われており、設備の安定化につながっているとが伺えます。また現場が雰囲気が明るく、働きやすい職場だと感じました。

■設備管理資料について
設備情報の管理が、やや属人的な面があるといえます。そのため機器図面や検査指示書、整備指示書などを重要設備だけでも整理することで、工場の長期停止のリスクを下げる効果が期待できます。

■予防保全について
予防保全を導入することで、設備の整備コストを下げることが考えられます。貴社工場には、XXX台の設備がありますが、その内、XX台は、全体工程への影響が大きいため、攻めの保全によるリスクヘッジが必要だと考えられます。

■こんなことがわかる
- 同等規模の工場と比較して、自社の保全水準がわかる
- 保全活動の不足項目が一目でわかる
- 不足項目の改善案がわかる

■得られるメリット
- 設備の維持管理方法の見直しができる
- 維持管理活動の水準を高める計画を作れる
- 基準や標準類の整理方法を検討するヒントになる

■こんな改善につながる
- 自社内の維持管理の水準を高めることで、設備トラブルや品質不良のリスクを低減できる
- 設備故障の削減につなげて、生産量を増やすことができる

報告書サンプル

A. 保全水準把握コース -2

工場診断、すぐにできる未来への投資です。
工場の課題でお困りのことがございましたが、お気軽お問い合わせください。

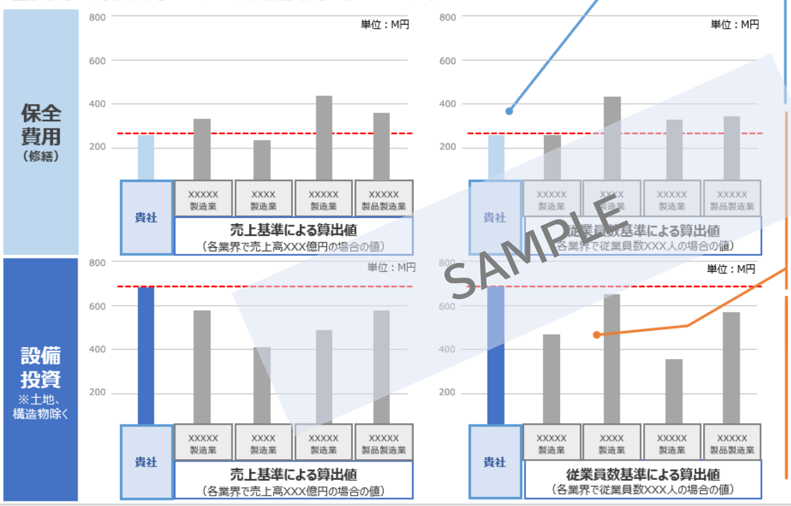
- Aコースは、経営課題が明確にできていないお客様におすすめです。
- サンプルは標準的な内容のため、診断視点を変えての対応も可能です。
- その他コースの報告書サンプルが必要な場合は、メールまたは、お問い合わせフォームよりお気軽にご連絡ください。
- 全国どこでも出張で対応いたします。

みんなの保全パーソン
保全ラボ
HP: https://hozen-lab.co.jp
E-mail: contact@hozen-lab.co.jp

3. 保全費用の業界比較

保全費用、設備投資費用の業界比較

貴社の売上額(XXX億)や従業員数(XXX人)を、業界平均データに当てはめ算出した結果、保全費用は規模相応でしたが、設備費用は多めでした。



■保全費用の総額はXXXXXXXXXXXX
➢ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

■設備費用の総額はXXXXXXXXXXXXXXXXX
➢ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
➢ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

■能力増強工事により、一時的に設備費用への配分割合が高い
➢ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
➢ XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

■こんなことがわかる
- 業界の標準的な保全費用と設備投資費用にかける割合がわかる
- 業界の平均的な保全費用と設備費用を、自社の規模に換算した値がわかる

■得られるメリット
- 保全費用を検討するヒントになる
- 保全費用と設備投資費用の統計データから、業界の動向を推測できる
- 設備投資の判断基準として使用することができる

■こんな改善につながる
- 生産目標や各種管理指数の精度を高められる
- 予算のベンチマークを設計することで、予算管理の確度が上げることができる

4. 日常保全の課題分析

日常保全の課題と原因

① 巡回点検については、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
② 潤滑管理については、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
③ 日常保全においては、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

① XXXXXXXXXXXXX

巡回点検内容

- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX

クライアント資料

② XXXXXXXX

潤滑管理の状況、書類確認

- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX

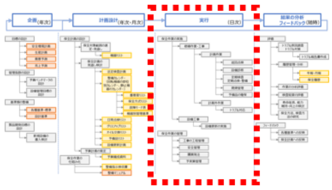
クライアント資料

③ XXXXXXXXXXXXX

日常保全の内容

- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX
- XXXXXXXXXXXXX

企画		計画設計		実行		評価
0.5	:	2.5	:	6.5	:	0.5



SAMPLE

■こんなことがわかる
- 設備の維持管理活動の課題がわかる
- 設備の安定化に必要な具体的な改善案がわかる
- 業務フロー改善に必要なドキュメントがわかえる
- 業務負担が大きいタスクがわかる

■得られるメリット
- 業務フローの改善検討を進めることができる
- 省力化を検討するヒントになる

■こんな改善につながる
- 生産を安定させて、経営目標の達成確度を高められる
- 業務フローを見直すことで、工場の生産性を高めて、より付加価値の高い業務に時間を費やすことができる